



三ツ池公園 / 三ツ池公園パートナーズ

三ツ池公園・敷地面積29万7000平方メートル
ビオトープエリア1万平方メートル

生物多様性日本アワード受賞の反応は？

まだ社内に情報が行き渡っていないようで大きな反応はありませんが、これからは「トンボはドコまで飛ぶかフォーラム」の活動の一翼を担っていききたいと思っています。

公園の管理やフォーラムの活動で気をつけていることは？

ヤゴや水生昆虫のために冬でも田んぼに水を入れて切らさないように注意しています。

また、夏には園内の一部の草を残して、トンボをはじめ昆虫たちの住みかになるような環境整備を心がけています。

三ツ池公園では本調査、「トンボとり大作戦」の両方が行われています。「トンボとり大作戦」の活動は、参加する子どもたちにトンボが長い距離を移動すること、またトンボが住める自然が身近に残っていることを教えてくれます。

我々スタッフはこのような自然環境をいつまでも保全していくとともに、安心して公園を利用いただけるような公園管理に努めて行きたいと思っています。



2012年に三ツ池から飛んできた
チョウトンボ

調査サポーター

(株)ポリテック・エイデイデイ

※環境コンサルタント会社として調査に参加している企業です。

「生物多様性日本アワード優秀賞」受賞は、活動に関わっている私たちにとっても大変うれしいことです。この活動は15年前から、「生物多様性」という少しむずかしい概念をいち早く活動の中心に据え、市民や企業の足元に届けてきたものといえるでしょう。

弊社は、調査が始まった年から、ほぼ毎年（たぶん毎年）社員が調査に参加し、活動に関わらせていただきました。最近はいんターシップにきた大学生を連れていたり、新入社員の研修的な場所としても活用させていただいています。単に生物調査という視点だけでなく、まちづくりをどうするかという視点や意識を養うには、この調査への参加はとても良い機会となっていると感じています。

この活動は、いろいろな方の思いが遺伝子のように継承されて続いてきた活動だと私は思います。その根底にあるのは、生きものとの過ごす時間や空間を、次世代に少しでも残したいという思いではないでしょうか。フォーラムの活動がこれからも50年、100年と継続し、未来の子どもたちに大切な何かを伝える場となってくれることを心から願っております。

